

2021 アートマイル国際協働学習プロジェクト 報告書

日本学校名 [牛久市立おくの義務教育学校] 担当教諭名 [小更 宏] (6年1組 34名)
 相手国・地域 [台湾]
 海外学校名 [Shaung-Xi Elementary School] 担当教諭名 [Chou Yi-Chung]

■実施教科・時間数について教えてください。

| | 教科 | 単元名 | 時間数 |
|-------------------------|-----------|-----------|-----|
| アートマイルに関連した 実施教科・時間数 | 総合的な学習の時間 | おくの未来予想図 | 32 |
| | 外国語 | 日本の紹介をしよう | 3 |
| | 国語 | 対話を楽しもう | 2 |

■作品に込めた想いについて教えてください。

| | |
|--|---|
| 題 (テーマ) | Creation of a New Future (新しい未来の創造) |
| メッセージ (相手と想いを合わせて 世界に発信したいメッセージ) | 世界には不平等や飢餓、貧困などの様々な課題がある。そこで、すべての人間や動物が安心して生活できる世界、平和で繁栄した世界、すべての資源を無駄にしないで、持続可能で愛と寛容で調和のとれた世界と新しい未来の創造に向かってみんなで考えていこう。 |



■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

| 成 果 | 課 題 |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> 交流時の視点を明確にしたことで、単なる発表ではなく、1往復半以上の話し合いをすることができた。 海外の友達と共にSDGsについて考えたことで、児童一人一人の視野が広がってきた。 社会にある様々な課題に対して、自分事として受け止める児童が出てきた。 | <ul style="list-style-type: none"> 討論や協議の基本がまだ十分に身に付いていないため、相手の考えを受容的に受け入れようとするあまり、自分の考えをきちんと主張できない児童が見られた。 他の教科・領域との連携が不十分な所があり、活動自体に広まりや深まりを持たせることができなかった。 |

■アートマイルに取り組む前と比べて相手の国・地域や世界に対して意識はどう変わりましたか？

| 児童生徒の意識の変化 | 教師の意識の変化 |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 世界、SDGs、地域、英語に対する意識は全体的に高まってきた。今回の交流先である台湾について積極的に調べる子やSDGsの中で自分が一番の課題だと思ったことに対して自ら行動を起こす子、海外の友達と交流するためのツールである英語の力を伸ばそうとする子が出てきた。 | <ul style="list-style-type: none"> 教師のスタンスが変化してきた。「導き・育てる」から共に「悩み・考える」へ。 交流学习を通して、子供の交流だけでなく教師間の交流の必要性を強く感じるようになった。 真の意味での「協働学習」「探究学習」について今まで以上に考えるようになった。 |

■主な活動の流れを教えてください。

| 場面 | 時期 | 活動内容 | 児童生徒の反応 | 実施教科等 |
|--------------------|----------------|---|---|-------------------|
| 出会い 自己紹介 | 6月 7月 | <ul style="list-style-type: none"> 自己紹介の動画作成 相手国について調べる meetでの交流(出会い) SDGsの学習 | 児童全員がこれから始まる学習に対して高い関心を持つことができていた。そして、オンラインでの交流を通して活動への関心が高まるとともに、相手に対しての親しみを覚えていた。 | 総合6 英語2 |
| 共有 テーマ学習 | 8月 9月 | <ul style="list-style-type: none"> SDGsの学習 世界の課題と地域の課題を関連させ、活動テーマについて考える 共通の学習として、セヴァン・スズキさんの動画を視聴 | 日本と台湾で互いの地域の課題について学習していたが、情報交換をすすめる中で、台湾の水環境の実態が分かると、自分たちの地域の水環境について意識して調べ、2つの地域の違いについて思いを巡らす児童が見られた。 | 総合8 |
| 融合 メッセージ作成 | 10月 | <ul style="list-style-type: none"> 壁面に込めたいメッセージや壁画の原案を学校ごとに考える。学習の様子はフォーラムで共有 | 自分や自分たちの想いと交流先の友達の想いをどのように融合させ、絵のデザインの中に生かしていくかということグループ内で積極的に話し合う姿が見られた。 | 総合6 国語2 英語1 |
| 創造 壁画制作 | 11月 ～ 2月 | <ul style="list-style-type: none"> オンラインでの壁面に込めたいメッセージやテーマを協議、決定する 壁画の作成。活動の様子はフォーラムを通して、相手校と共有 | 壁画作成にあたっては、子供たちがそれぞれの長所を生かしながら分担して、原画を考え絵を描くことができていた。 | 総合8 |
| 評価 振り返り 自己評価 | 3月 | <ul style="list-style-type: none"> 振り返りアンケート調査 共同の壁画鑑賞会 YWTを使った振り返り | 自分たちの活動に対しては、ほぼ全員が満足していた。本活動の中で感じたことや思ったことを実践化している児童がみられた。 | 総合4 |

■アートマイルでついた力について教えてください。

評価 (5:とてもついた 4:ついた 3:どちらともいえない 2:あまりつかなかった 1:つかなかった)

| 学習目標・つきたい力 | 評価 | 教師がそう感じた場面と理由 |
|---------------------------------|----|---|
| 異文化・自文化を理解する力 | 5 | 活動が進むにつれて、自国の文化や風習を相手に伝える際に、正確に相手に理解してもらおうとする工夫がみられるようになった。また、同時に相手国の文化や風習の背景にある、自分たちとは異なる価値観に気づく児童が出てきた。 |
| 批判的に思考する力 (客観的・論理的視点) | 4 | 自分たちの思いをできるだけ正確に理解してもらうために、自分たちの意見をできるだけロジカルにしていこうとする児童がみられた。また、相手の意見に対してそのまま受け入れるのではなく、自分の中の考えと照らし合わせている児童も見られた。 |
| 主体的に考え行動する力 | 5 | 台湾の子供たちとのSDGsの協働学習の中で、感じ、考えたことを「先生、～ということを実践してもよいですか。」という声が多くの子供たちの中から聞こえたから。 |
| 多様な他者と対話・協働する力 (海外の相手と対話・協働) | 5 | 一つの壁画を完成させるために、それぞれが自分のよさを生かしながら友達と協力しながら活動することができた。話合いの場面では、相手の立場なども理解しながら意見を交換することができた。 |
| 想いを言葉や形にする力 (メッセージ作成・壁画制作) | 4 | 日本と台湾の子供たちがもっているそれぞれの思いを一つのメッセージとしてまとめ、壁画の中に表現できた。 |